

## こうした課題について、みなさんはどうお考えですか？

この「まちづくりレポート」で紹介している3つの課題について、町民のみなさんの自由なご意見やご提案を求めています。

こうした課題に取り組んでいく上で大切なこと、具体的な施策やアイデアなど、自由に送ってください。また、この課題以外にあなたが考える大切な課題がありましたら、それについて書いていただいてもかまいません。

なお、いただいた内容は、新しいまちの総合計画策定作業の中でよく検討し、極力反映させていただくことになります。

### 問い合わせ先

#### 富里町役場企画課

〒286 - 0292

千葉県印旛郡富里町七栄 652-1

TEL 0476 (93) 1111 (代)

FAX 0476 (90) 1015

この「まちづくりレポート」に関するご意見やご提案は、下の添付ハガキに記入して郵送してください。切手代は不要です。  
なお、ハガキに書ききれない場合は、別紙による郵送やFAXでもかまいません。

とみさと

## まちづくり レポート

第1号

富里町では、市制の施行を展望した21世紀のまちづくりのため、新しい総合計画の策定作業を進めています。

総合計画とは、この先10年の間に富里としてどんなまちを目指し、どんな事業を進めていくのかをまとめたものであり、いわばこれからのまちづくりの羅針盤です。

この「まちづくりレポート」は、これからの富里町が抱える主な課題を町民の皆さんとともに考えていくためにつくられたものであり、希望者に自由に配布されています。

どうかご一読のうえ、ご意見やご提案をお寄せください。

### まちづくりレポートのすすめ方

「広報とみさと」で呼びかけます。

意識調査や町の広報紙などで、「まちづくりレポート」を求める希望者を呼びかけます。

希望者に「まちづくりレポート」を配布します。

希望のあった町民の方々に、郵送で「まちづくりレポート」を配布します。

ご意見・ご提案をいただきます。

「まちづくりレポート」の中に添付されているハガキによって、町民の方々からご意見やご提案をいただきます。

結果を広報でお知らせします。

ハガキに寄せられたご意見やご提案の結果のあらましを広報紙でお知らせします。

策定中の総合計画へ反映させます。

ご意見やご提案は、総合計画の内容に極力反映させていただきます。

# 1 まちの魅力をどう高めたらいいでしょうか。

富里町は平成11年9月に町民意識調査を実施しました。このアンケートの中で、富里町の誇りや自慢、期待について、数多くの町民のみなさんから貴重なご意見をいただきました。今後、こうした富里固有の魅力をさらに高めていくために、どうしたらいいでしょうか。

## < アンケートにみる富里の誇り、自慢 >

### 都市の魅力と田園の魅力が共存しています。

- ・野山の緑に恵まれ、自然が多く残っていることは住むのに最高の環境です。しかも車を使えば、結構生活上の利便性が得られる。このバランスを今後も絶対に残してほしい。
- ・田舎の純朴な良さと近代的な便利さをあわせもつところがとてもよいと思います。

### 富里スイカが自慢です。

- ・ずばりってスイカの味です。季節になると、あっちこっちにスイカを送ります。返事はいつも「こんなおいしいスイカは、全国広しといえど、どこにもありません。」これが富里町に住んでいる私の自慢です。
- ・富里というと「スイカの町」ですねと言われることがあり、うれしくなります。

### 静かで人情味があります。

- ・昔ながらの人情があり、お互いに信頼し合う関係、助け合う関係を大切にして生活しています。道端であいさつを交わし合ったり声をかけ合ったりすることが自然に行われ、その中で子供たちが育ってほしいと考えています。
- ・農作物の収穫の時期になると、近所の農家の方から野菜などをもらったりすることがあるように、まだ地域の交流が盛んに行われているところ。

### 成田空港への利便性がよいことが魅力です。

- ・仕事から、海外に出掛けることの多い我が家の家族にとって、15～20分位で空港を利用できる便利さに大変満足しています。

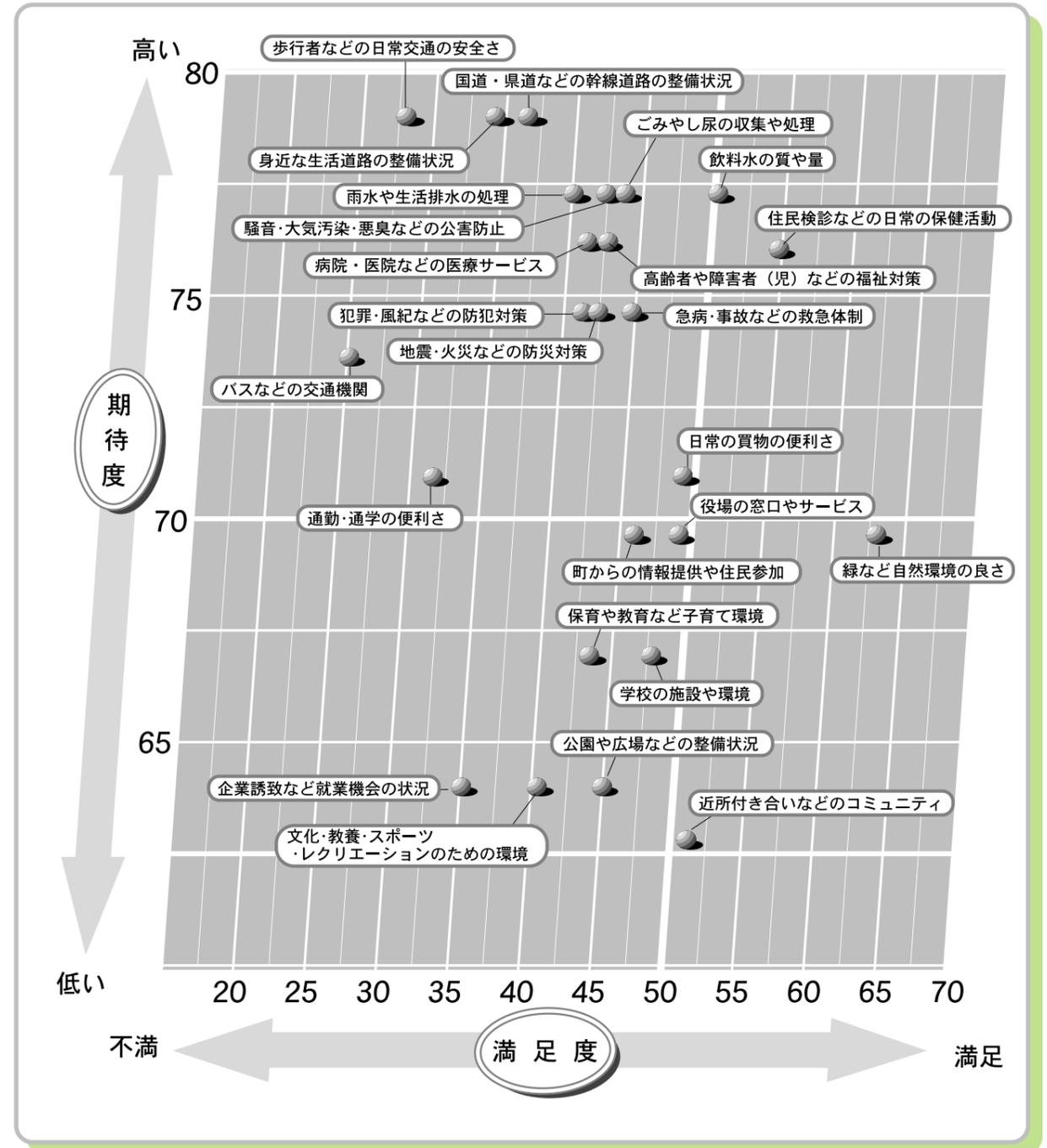
### 自然が多く、野菜が新鮮でおいしい。

- ・緑が多く空気がきれい。野菜類も新鮮で安く新しいものを食べることができ、生活はとてもしやすい町だと思います。
- ・富里町のある北総台地は、印旛沼に至る水系、利根川に至る水系、太平洋に注ぐ水系の分水嶺であり、それは各水系の水源地であるということです。このような重要な存在である森林を「開発」という名のもとに伐採し、なくすことは、富里町だけの問題ではなく、地域あるいは地球的規模というマクロな視点で見れば、絶対に慎むべきです。

## < アンケートにみる町政への期待 >

暮らしの環境25項目について、その期待度と満足度をうかがったところ、特に不満が強くこれからの町政に期待するものとして、交通安全や道路整備に関する項目が上がりました。

暮らしの環境 25 項目の期待度と満足度

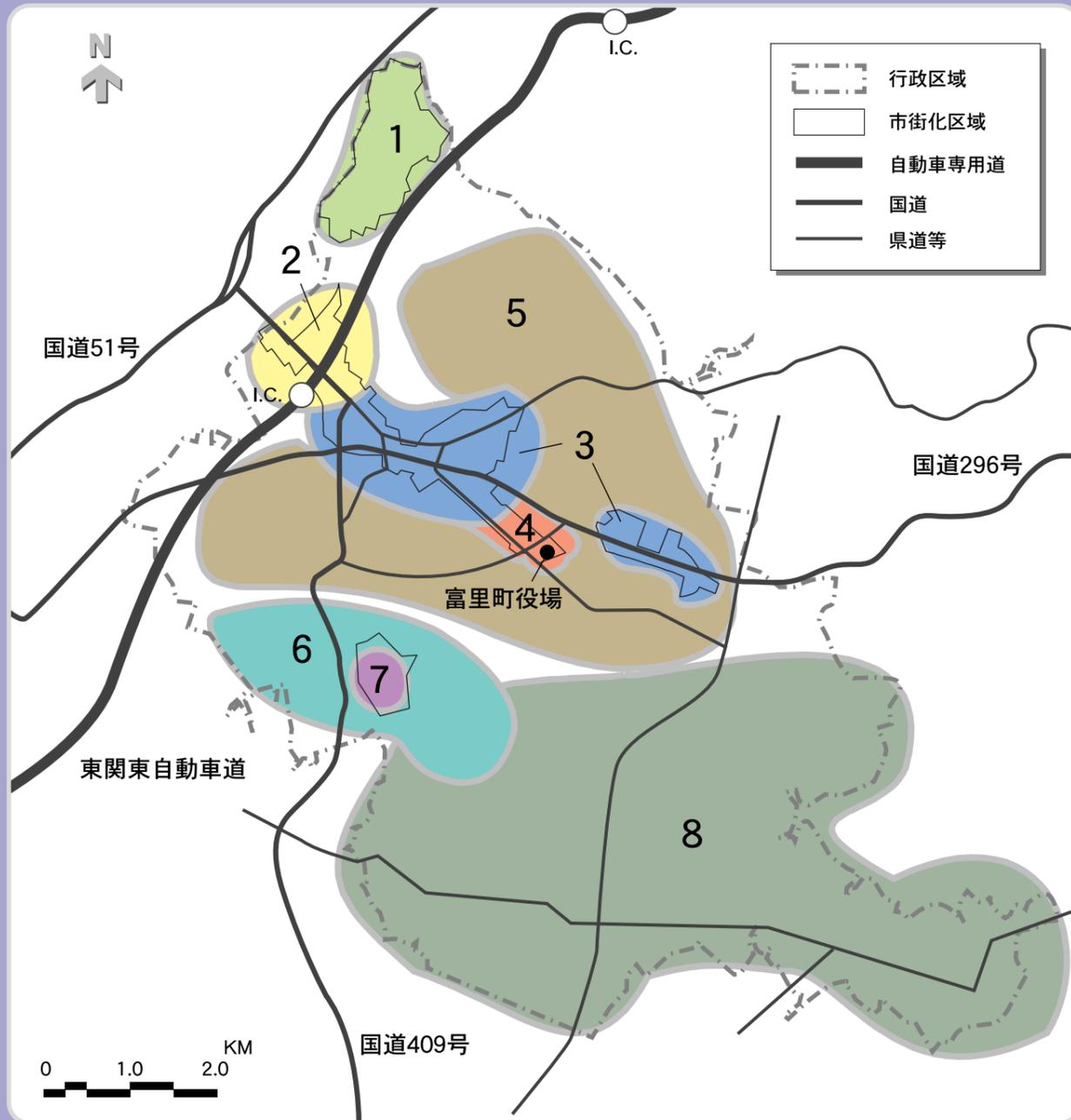


図の見方：図上で右側に行くにつれて満足度が高く、また上側に行くにつれて期待度が高い項目であることを示します。

## 2 都市として一体感あるまちづくりを進めるには？

富里町は、成田空港の開港や首都圏の外延化などから5万人に迫る勢いで人口増加が続いており、市制の施行が現実的な課題となっています。

一方、都市づくりの現状をみると、まちの中心核づくりや活気ある市街地の形成などの面で課題を残しています。平成11年9月に実施した意識調査でも、多くの町民の方々から道路や歩道の整備、まちのにぎわいづくりなどを求める声が出されています。今後は、市としてふさわしい、一体感と活力のある都市らしさの形成を図っていくことが必要とされているのではないのでしょうか。



**1** 宅地開発により整備された地区であり、人口が集中しています。成田市の市街地と隣接し、にぎわいの多い地域となっています。  
 今後は、暮らしの魅力を高めるための環境整備などが求められています。  
 また、町の北端に位置し、役場などから離れているため、町としての一体感を高める必要があります。

**2** 富里I.C.周辺は、商業・サービス業などの立地が進み、多くの来町者によって、にぎわいのある地域となっています。  
 今後は「富里の玄関」として、また、商業や流通の核としての役割が期待されています。

**3** 国道409号、国道296号は町の中心部と富里I.C.、国道51号及び成田空港を連絡していますが、通過交通が多く、時間帯によっては交通渋滞を招いています。  
 今後は、幹線道路及び連担した市街地により、町の軸としての役割が期待されています。

**4** 役場を中心として公民館や中央公園など多くの公共施設があり、また周辺には医療機関の立地が進み、人の集う核としての機能が集積しつつあります。  
 今後は、行政や文化の中心として、また良好な住環境の創出や業務の集積など、市街地整備の促進が課題となっています。

**5** 山林や農地、谷津田など多くの自然と住宅地が混在しており、大小さまざまな宅地造成が行われ、富里町における人口増加の背景の1つとなっています。

**6** 高崎川の最上流部を中心とする地区で、古くから集落が形成されています。山林や谷津田など豊かな自然が数多く残されています。

**7** 工業団地として、土地区画整理事業が進行している地域であり、将来、富里町の工業の中心的役割を担っていく地域です。

**8** 畑作を中心とする農業地域であり、首都圏の食糧供給基地として、富里町の農業の基幹的地域となっています。近年は農業基盤整備が進むとともに、施設園芸など農業経営が多角化、高度化しています。

富里町は豊かな自然環境を有しており、農地や山林、原野は全体の約3分の2を占めています。  
 住民意識調査での富里町の将来イメージは「緑豊かな」が最も高く、町の大きな魅力の一つとなっています。  
 しかしこの10年間に山林・原野の約14%が減少しており、今後はその保全が課題となっています。

町の面積が広く、様々な地域で構成される富里町では、町全体の一体感を創り出していくために、道路交通体系の整備が大きな課題の一つとなっています。  
 特に町内に鉄道駅がない富里町では、バスが唯一の公共交通機関であり、これまでの住民意識調査でもその充実を求める声が高くなっています。

# 3 生涯にわたって ゆたかな暮らしづくりを進めるには？

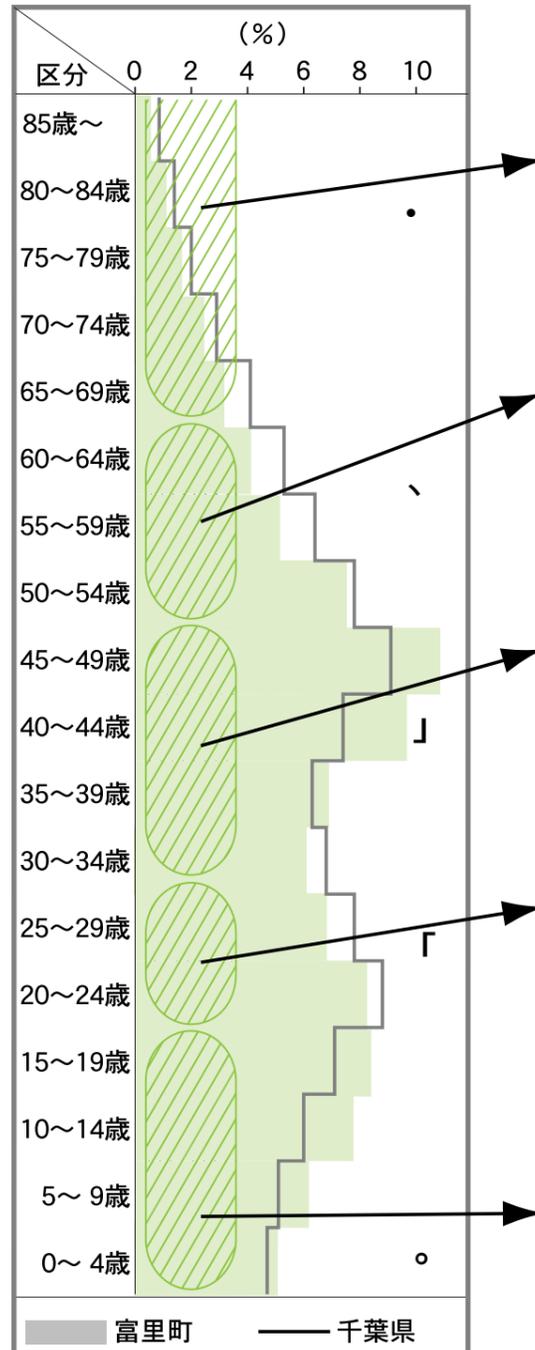
富里町は、千葉県の人人口構成と比べて次のような特徴があり、注目されます。

- ・ 40歳代の年齢層の割合が特に高い。
- ・ 10歳代の青少年の割合が高い。
- ・ 65歳以上の高齢者の割合は県に比べて低い。

住民の皆さんが安心して生涯暮らすことのできるまちをつくるにはどうしたらいいでしょうか。人は生まれてから高齢者になるまで、人生の時々に応じてふさわしい環境が必要になります。一人ひとりのライフサイクルに応じたきめ細やかな施策を進めていくことが大切ではないでしょうか。

また、超高齢化社会の到来を目前に控え、子どもから青壮年、高齢者まで各世代のバランスがとれた人口構成を確保することが町の活気を維持していく上で重要になるものと考えられます。子どもや若者を地域にとどめ、町の活力を増大させるとともに、高齢者が安心して住み続けられるまちをつくるにはどうしたらいいでしょうか。

富里町と千葉県の人口ピラミッド比較



特 徴	人 口 動 態	今 後 の 動 向	政策上の課題	意識調査結果にみる意識・意向の特徴	
				定 住 意 識	生 活 環 境 評 価
<b>在宅での定住を望む高齢者層</b>					
<p>85歳～</p> <p>80～84歳</p> <p>75～79歳</p> <p>70～74歳</p> <p>65～69歳</p> <p>60～64歳</p>	<p>地元で生まれ育った層が多い構成となっています。住み慣れた住まいや地域でこれからも安心して住み続けようとする層が多くなっています。</p>	<p>全体として安定して推移している層です。</p>	<p>安定した層ではありますが、増加の要因としてそれぞれの出身地から高齢になった親を呼び寄せて同居するなどの傾向も考えられます。</p>	<p>在宅での福祉・医療サービスの充実</p>	<p>65歳以上の定住意識は87%と最も高い割合を示しています。</p> <p>65歳以上の町民の73%が高齢期の生活に不安を感じており、特に84%の方が医療や介護のことで不安を持っています。</p>
<b>ライフサイクルの転機を迎える熟年層</b>					
<p>75～79歳</p> <p>70～74歳</p> <p>65～69歳</p> <p>60～64歳</p> <p>55～59歳</p> <p>50～54歳</p> <p>45～49歳</p> <p>40～44歳</p>	<p>地元で生まれ育った層が多い構成となっています。定年退職や子育ての終了などにより夫婦で、また地域ですごす時間が飛躍的に増える層を多く含んでいます。</p>	<p>これまでは転入も少なく比較的安定して推移してきた層です。</p>	<p>今後は層の厚い(壮・中年層)が加齢してこの層に移行してくることが予想されます。このため、ライフサイクルの転機に応じて、地域で生き生きとすごすことができるよう、施策の充実を図ることが必要になるものと考えられます。</p>	<p>家庭、地域での自己実現要求の高まり</p> <p>多様な生涯学習機会の充実</p> <p>地域活動や社会活動への参加要望の高まり</p>	<p>50歳から64歳の定住意識は80%と高い割合を示しています。</p> <p>50歳代前半は、スポーツ・文化・レジャーの充実やコミュニティづくりに対し、それぞれ50%以上の高い期待を示しています。</p>
<b>層の厚い壮・中年層</b>					
<p>55～59歳</p> <p>50～54歳</p> <p>45～49歳</p> <p>40～44歳</p>	<p>いわゆる「団塊の世代」にあたり、日本全体でみて層が厚くなっています。本町の人口が急増した昭和50年代に転入された人も多く、千葉県の水準を大きく上回って厚い層となっています。</p>	<p>これまでは、急激な人口増を背景として増加を続けてきました。特に平成2年から7年にかけての5年間でみると、全ての年齢層の中で最も大きな増加を示しています。</p>	<p>昔から町内で生まれ育った層や、住宅を取得して町内に転入してきた層の多くは、今後も町内に住み続けていくものと期待されます。しかし、新規の大規模な宅地開発は見込まれないことから、現在の層が加齢して熟年層に移行していくにつれ、次第に厚みを減らしていくものと予想されます。</p>	<p>新規住宅供給の促進</p> <p>交通利便性の向上</p> <p>子育て支援策の充実</p>	<p>30歳代、40歳代の定住意識は68%となっています。</p> <p>30歳代、40歳代では、これからのまちづくりで優先すべきこととして、幹線道路や公共交通の整備を求める声が38%と高くなっています。</p>
<b>出入りの激しい20代層</b>					
<p>35～39歳</p> <p>30～34歳</p> <p>25～29歳</p> <p>20～24歳</p>	<p>就職や結婚などを契機として世帯の分離や居住地の移動を迎えることの多い層です。</p>	<p>突出して転入の激しい層です。20代でみると、平成9年～11年の3年間に1,500人前後の出入りがみられます。全体としてみると、近年はやや転出が多くなっています。</p>	<p>就職や結婚などを契機に居住地の移動を考える機会が多くなる層です。また、地域の魅力により比較的自由に居住地を選択できる層でもあります。町外への転出が加速されれば町全体の人口推移や人口バランスに大きな影響が考えられます。</p>	<p>まちのにぎわいづくり</p> <p>交通利便性の向上</p> <p>魅力ある就業機会の創出</p>	<p>20歳代の定住意識は45%と最も低い割合です。</p> <p>20歳代では、バスなどの交通網整備や幹線道路整備を期待する声が非常に高くなっています。</p> <p>移り住みたい理由として、通勤や買物の不便さ、余暇のための場の不足が多くなっています。</p>
<b>層の厚い青少年層</b>					
<p>15～19歳</p> <p>10～14歳</p> <p>5～9歳</p> <p>0～4歳</p>	<p>昭和50年代以降に転入した家族によって大きくふくらんだ層です。千葉県の水準を上回って厚い層となっています。</p>	<p>これまでは、急激な人口増を背景として増加を続けてきました。特に平成2年から7年にかけての5年間でみると、10歳前後の学齢期の層が大きな増加を示しています。</p>	<p>近年の人口増加はゆるやかで横ばいに近づいていくこと、出生数も低下傾向にあること、新規の大規模な宅地開発は見込まれないことなどから、このままでは次第に厚みを減らしていくことが考えられます。</p>	<p>青少年育成の環境づくり</p> <p>少子化対策の推進</p> <p>子育て支援策の充実</p>	<p>小中学生以下の子を持つ回答者の定住意識は70%となっています。</p> <p>移り住みたい理由として、小学校未入学の子を持つ回答者では「子育てのための施設が不十分」が54%と最も高くなっています。</p> <p>保育や教育などの子育て環境に不満を感じる回答者が小学校未入学の子を持つ人では47%、小中学校の子を持つ人では41%と、それぞれ全体の29%を大きく上回っています。</p> <p>小中学校未入学の子を持つ人については、若い世代が定住していくために必要なこととして「子育てのしやすい環境を整える」が35%と最も高くなっています。</p>